

平成27年度第1回スポーツ推進審議会 議事録

- 1 日 時：平成27年5月7日(木) 15:30～
- 2 会 場：柳川庁舎 1階 会議室
- 3 出席者：増田 あけみ、川村 浩司、中田 吉光、奥 静子、三浦 憲二、
和嶋 裕人、村上 清男、奈良 輝昭（8名）
事務局：部長 成田 聖明、理事 横山 克広、課長 木村 久美子、
副参事 田村 亜希世、主幹 今村 剛志、主査 木村 和美、
主事 中原 啓輔（7名）

4 概 要：

(1) 委嘱状交付

4月20日付けで新たに任用された、川村浩司委員、中田吉光委員へ成田教育部長から委嘱状を交付した。

(2) 会長あいさつ

(3) 会議

①副会長の選出

「資料 1. 青森市スポーツ推進審議会概要」について事務局から説明。
これまで副会長であった笠島氏の退任にともない、新たに副会長を選任する必要があることについても説明。奥委員から事務局案の提示を求める意見があり、事務局案として和嶋委員の副会長案を提示した。

⇒事務局案について委員からの異議はなく、和嶋委員本人の承諾もあり、新たな副会長は和嶋委員に決定した。

②新たな青森市スポーツ推進計画について

「資料 2. 青森市スポーツ推進計画の概要」

「資料 3. 青森市スポーツ推進計画」

「資料 4. 事業概要表」

「資料 5. 新たな青森市スポーツ推進計画について」事務局から説明。

(内容)・計画の位置づけの変更となったこと

- ・振興基本計画、さらには総合計画との同時進行となり、第2回審議会以降の日程と内容は、振興基本計画の作業進捗に合わせて行っていくこと
- ・新たな計画の作業の進め方は、まずはフォローアップを実施し、現計画策定時の状況（課題）からの変化、さらには審議会からの意見をまとめたうえで、現計画の取組みを軌道修正していく方法による

こと

- 計画は「取組みの方向性」を定めるもので、事業偏重の議論とはしないこと

【質疑等】

奈良委員

国でスポーツ庁の創設に向けて動いているが、スポーツ推進計画の方向性の議論をしていく際に、国の動きや県の動きといったものとの関連付けはどのように捉えればいいのか。

木村課長

国で策定したスポーツ基本計画に基づき、現在の（市の）スポーツ推進計画を策定しているので、次の計画も同様に国の計画に基づき策定する。

成田部長

国の動向については、まだわからないところもあり、今年、市のスポーツ推進計画を策定していく段階で具体的な内容が見えるかどうかはわからないが、想定はしていく。

奈良委員

スポーツ基本法ができた段階では、東京でのオリンピックは決定していなかった。東京でのオリンピックが決まり、競技水準の向上に力が入ってくるので、市の合宿誘致など、その辺りを見据えた方向性もでてくるのではないかと考えた。

成田部長

その点については、今後新たなスポーツ推進計画の策定にあたり、委員の皆さんと議論する中で検討したい。青森市としては10年後には国民体育大会も想定しているので、そちらも見据えた内容についても議論していきたいと思う。

三浦委員

健康アップあおもりプランを策定しましたと大々的に出していたが、それとの関連性はどうかとらえるのか。

今村主幹

昨年度、「元気都市あおもり健康づくり推進計画」を青森市健康福祉部で策定した。食と運動について検討する部会に、文化スポーツ振興課長がメンバーとして参加し、当課が実施している事業の中で「元気都市あおもり健康づくり推進計画」にマッチしたものがあれば、協力して取り組むこととしている。

⇒新たな青森市スポーツ推進計画の策定に向けた作業の大よその枠組について、事務局提示内容のまま同意を得た。

②青森市スポーツ推進計画のフォローアップについて

「資料 6. フォローアップ作業シート」

「資料 7. 新たな青森市スポーツ推進計画策定作業シート（案）【サンプル】」について事務局から説明

（内容）

フォローアップの進め方、作成方針について説明

- フォローアップ作業については、今後一体となる青森市教育振興基本計画と同じ様式でフォローアップの作業として行っていること
- フォローアップ作業については、現在、教育委員会事務局各課で鋭意作業を行っていること（さらに上位となる総合計画のフォローアップ作業も行われていること）
- 委員の皆様たたき台として示すことができるものが完成次第、郵送等で送付するので、FAX、メール等でご意見をいただき、事務局案として取りまとめたいこと
- シートの構成と、これから埋めていく項目の作成方針

（内容）

【参考情報として】新たな計画の策定作業シート（案）を使用し、フォローアップ後の策定作業の方法（方針）について説明

- この資料は、フォローアップ後に新たな計画を策定する際の、考え方を落とし込んだもの
- 現計画策定時の状況（課題）と今回のフォローアップの内容を踏まえて、現計画の取組み内容を確認し、今後の取組みを検討すること
- 計画とは「取組みの方向性」であるので、現在の取組みが今回のフォローアップの内容も含んでいるのであれば、事業内容の変更で対応すること

【質疑等】

三浦委員

スポーツ推進計画の中には、スポーツ施設の整備等については出てこないが、別途どこかで計画しているのか。

木村課長

限られた予算ということもあるので、（現在の施設を）修繕するなどして、よりよい活用を行っていく。新たに施設を作るというのは、今の段階では考えはない。施設の件については、ご意見をいただきながら（方向性を含め）検討していきたい。

和嶋委員

市民体育館はだいぶ老朽化を感じている。（施設の整備等は）将来的には必要なことと考える。

木村課長

市全体でのファシリティ・マネジメントという枠組みで整理していこうという状況なので、その中で検討していきたいと考えている。

三浦委員

意気込みぐらいでも入れてもらいたい。新たに作るというよりも既存施設をうまく具合に利用しながら、となると思うが、それ相応の施設は作っていかないといけないのではないか。

次の日曜日に行われる青森市の小学生の県大会予選会が、場所（使用できる競技会場）がないため、弘前の陸上競技場でやらなければならない。

（宮田地区に）新しい施設（陸上競技場）が整備されるが、あくまでも県の施設であり、ラグビー、サッカー（の施設利用）が入ってくると陸上競技は入り込む余地がなくなる。

多くの費用はかけなくてもいいので、既存の安田の運動公園を青森市が指定管理で管理するくらいの感じで（競技水準の向上のため）取り組んでいただきたい。

成田部長

オリンピックの合宿誘致にしても、やはり施設ありき。いくらおもてなしが良くても、施設がなければ合宿誘致はできない。

様々な補助金もあるので、（それらを活用すれば）市の負担も減らせる。

安田の運動公園については、どこまで活用できるのか先が見えない。プールもないからミニ国体もできない。施設が揃わないとどうにもならないのではないか。

古くなった施設については、我慢して使っている状況だが、かなり限界に近づいている。昨年度は市民体育館を直してきた。

国もお金がなくなってきているので、（施設の）長寿命化という考え方が出てきている。いかに長く使うかで補助金を出すので、計画を立てないと補助金はもらえない。

（施設に関して）我々は皆さんと同じ気持ちです。なかなか（全てに手を付けることは）できないが、できる部分からやっていかなければならないと考えている。もし、施設を整備するのであれば、競技も絞っていかなければならないと考えている。

和嶋委員

カーリングの世界大会において、アンダー18で4位となっている。

これからも子供たちや若い人たちがやれるように、また、やりたいものにならないといけない。

チーム青森がなくなった（休止した）理由を考えると、通年利用可能な施設がない。北海道と長野は通年利用可能で、年中練習ができ、競技で強くなっている。そこに（年中利用可能な施設に）カーリングのチームが集まり、お

金が落ちる。

施設のこととなると予算等で難しいだろうが、「カーリングの街・青森」を続けるべくやってもらいたい。

成田部長

施設が欲しいのは山々だが、いろいろな状況があるので、(既存施設で)どうしても直さなければならぬところからやっている。

和嶋委員

少子化で子どもの数が減っているが、将来の青森県の競技人口の中心となる、スポーツをやる子どもたちになるべく減らないようにしたい。

そのためには、小さい時から運動好きな子どもを増やしていく“場”を増やしていく必要がある。子どもは親がやっている種目をやることが多いので、そこに取り組みばいいのではないか。また、それらの取組みにあたっては、施設の拡大や指導力の向上も大事ではないか。

成田部長

指導力の向上のため、日本体育協会の指導者資格の取得に際して、講座料の4万円程度を全額補助している。

いい指導者にはいい選手が集まるが、いい指導者はヘッドハンティングされて中央に行ってしまう。スポーツ振興と経済はリンクしている。

カーリングの全国大会では、北海道のチームはスポンサーがついて、スポンサー名の入ったジャージを着ている。スポンサーが旅費を出すか、その選手がオリンピックに行けば会社の広告塔になる。そのように長い目で見てやっている。

「指導者」というのはキーワードとしたい。

⇒現行計画のフォローアップ作業の進め方について、事務局提示内容のまま同意を得た。

③その他について

特に報告事項は無く、事務連絡のみで終了。